

「授業備品」N037 H. 29. 4. 28 「5回のペアワーク・グループワーク（思考・判断・表現の循環）」

「過度の説明」「教師の都合による発問」「教え込む授業」、子供同士の学び合いがスムーズにいかなくなると、どうしてもこうした授業になる。教師主体の授業は、子供の学ぶ意欲を奪う。忍耐の授業授業となる。

教師の説明を極力押さえよう。教師ではなく、子供が主体となる授業のために、授業運営を子供にも任せよう。子供「参加型授業」だ。全員の子供たちが毎授業で「話す」ために、「5回のペアワーク」「グループワーク」の手法を使うとよい。思考・判断・表現の循環型の授業となり、子供の学習意欲は高まるだろう。

[問題の提示]

1. 前時の振り返りをする。

・ジャンケンで「説明役」「聞き役」を決める→負けた方が前時の復習を説明する→代表の子に説明させる(全員でシェア) *ジャンケンを使うとゲーム的感覚があり、ホッとするような空間になる。

2. 本時の資料・問題を見て気付きを発表する。(気付いたこと・考えられること・調べてみたいこと)

[問いの共有]

3. 問題の解決方法、およその答えを確認する。(見通しをもつ□ペア□班)

・見通しをもつためにペアや班で話し合う

[課題の設定]

4. 課題を確認(2段書、課題+考察)

5. アイテムの確認・キーワードの確認

6. 本時のシラバス・言語わざの確認

7. 課題解決の予想が立つかをサインで確認(立たない場合、

[自力解決]

8. 一人で課題を解決する

[集団解決]

9. ペア学習をする。(9. 班学習をする)

・①まず一人で1分間で記述する→②1分間独り言を言う→③つながらなところを1分間で修正する→④二人でジャンケンし伝え合う(ペアワーク)→⑤1分間で協議をする→⑥1分間で修正する

・(例) 100字で課題の内容を個人作業でまとめる(5W1H)→グループディスカッション

*ペア活動で重要なことは「聞き役」が重要。学び合いの場を積極的に仕掛け授業に主体的に参加させるようにする。ペア活動で、子供は確認、納得しながら学習を進められる。

10. 全体の学び合い1「事実・単純な意見集約」 ※課題1段落目

11. 全体の学び合い2「考察」 ※課題2段落目・考察

12. 教師の修正を聞く

13. 各自でノートをまとめる。進化(深化)タイム

[価値の共有]

14. 自分の言葉でまとめる

・①まず一人で1分間で記述する→②1分間独り言を言う→③つながらなところを1分間で修正する→④二人でジャンケンし伝え合う(ペアワーク)→⑤1分間で協議をする→⑥1分間で修正する

*導入と同じように他者に説明する活動を取り入れる。子供は相手に説明をすることで、自分の言葉でまとめることができる。思考の流れを整理できる。教師の立場と子供の立場を反転させる。

[振り返り(適用問題も可)]

15. 振り返りを書く(①分かったこと②学んだこと③知りたいこと)

・ジャンケンで「説明役」「聞き役」を決める→負けた方が振り返りを紹介する→教師は聞き役に指名する。

16. 適用問題を解く